

弘教寺



五濁悪世の時代を生きる

弘教寺住職 中山英昭

中国の武漢市で始まった新型コロナウイルスの惨禍は、対岸の火事のように受け止めていた日本にとっては、まさに足元をすくわれる状況となつてしまいました。全国的な規模に広がり、関東圏にまで発生している現状であつても、どう対処してよいのか戸惑う日々です。不安の中で過ごしているのは私だけではないと思います。

近年世界中で異常気象から、洪水や干ばつの災害が多発しています。昨年は台風19号による災害で東北、長野県などに多くの被害が出ました。オーストラリアでは干ばつによる火災で大変な被害が出ました。収束させた要因が災害に近い豪雨によつたことは皮肉なことでした。コアラをはじめとする多くの動物が亡くなつてしまいました。残念なことです。地球温暖化が叫ばれて久しいのですが、アメリカや中国、日本など積極的な動きが見られない状況では今後も世界的な災害は避けられないことでしょう。

『仏説阿弥陀経』の最後に「五濁悪世(ごじよくあくせ)」の文が2回出てきます。お釈迦様が往生されて後五百年は正法の時代が続く、教え・修行者・悟る者があります。

第45号

発行所

〒370-0131 伊勢崎市境米岡二七九-二 浄土真宗本願寺派弘教寺 寺報編集部 電話0二七〇(七四)〇五七三三

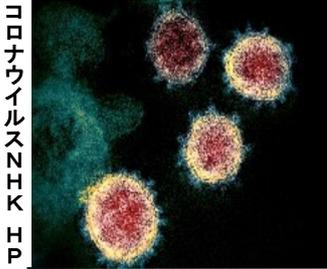


寺のQR

その後千年は像法の時代となり、教え・修行者が有るが悟る者のない時代になると言われております。さらにその後一万年は末法の世に入ると示されており。末法の世になると教えのみが存在しますが、修行者や悟る者はいなくなつてしまい、五濁悪世の世界となるといふものです。

親鸞聖人在世の時代(平安末期から鎌倉の時代)疫病、飢餓、戦乱の時代背景によつて12世紀には末法思想が一層当時の人々を不安にさせたようです。

五濁(ごじよく)とは『仏説阿弥陀経』の経末に劫濁 見濁 煩惱濁 衆生濁 命濁と出てまいります。劫濁(こうじよく)は時代の乱れで、飢餓や疫病、戦争などの社会悪が増大します。見濁(けんじよく)は思想の乱れ。邪悪な思想、見解がはびこるというものです。煩惱濁(ぼんのうじよく)は衆生の質が低下し、煩惱が盛んになること。命濁(みょうじよく)は衆生の寿命が短くなるといふものです。



末法思想の見方をとれば、すでに末法の世になつていふのですから、五濁の様相はいずれの時代にも表れることなのでしょう。

最近の日本で見れば、阪神淡路大震災、東日本大震災、局地的集中豪雨による災害、台風が多発と巨大化による災害、そして今回のコロナウイルスの蔓延(まんえん)と枚挙にいとまがないほどです

目に見えないコロナウイルスの全国への拡散により、人々の心の深層には不安と恐怖の思いが様々に広がつて来るのは当然のことと思ひます。

店頭からマスクがなくなつてしまいました。トイレットペーパーを買い求める長蛇の列を見ますと、昭和四十八年のオイルショックと同じ現象が起きております。スーパーマーケットのお米の棚が空っぽになつていふそうです。トイレットペーパーはほとんどが国産でまかなわれ、お米も十分にあるにも関わらず、不安をかかえる人々は誤つた情報で振り回されてしまつております。

親鸞聖人は正像末和讃に「像末五濁の世となりて 釈迦の遺教かくれしむ 弥陀の悲願ひるまりて 念仏往生さかりなり」と示しておられます。

真実が不確かな時代背景の中で、よりどころとなるものは念仏であると思ひます。歎異抄には「…火宅無常の世界はよろずのことみなもてそらごとたわごとまことあることなきにただ念仏のみぞまことにて…」の一文が有ります。阿弥陀様の願いである念仏という真実の世界から物事を見、判断の基準とすることが不安を解消する唯一の道であると思ひます。

合掌

門徒推進員養成連続研修会に参加して

県内十カ寺から研修会受講者40名および、講師役の各寺のご住職、並びに門徒推進員の皆様に参加し、群馬組第8期連続研修会が、高崎市敬西寺様を皮切りにしてスタートしました。弘教寺からは飯塚、小森、宮崎の各氏と私の4名での参加となりました。

開会式後のオリエンテーションで、研修会の進め方について説明を受けました。

8名ずつ5組のグループに分かれ事前に連研スタッフより話し合いの糸口となるテーマを与えられ、それに基づいて「話し合い法座」の形式でグループのコミュニケーションを深めて行くとのことでした。

私達は、様々な経験をし、胸の奥底に多くの思いを抱えています。ものごとの捉え方や考え方も異なります。それぞれの違いを認め合いながら話し合うことは、そのまま聞き合うということにもなります。心の奥底にある思いをお互いに引き出し合いながら、今日の【であい】を深めてゆく、そんな空間が話し合い法座です。

これから隔月で十二回、約二年間に亘る長丁場の研修が始まります。この【であい】を通じて自分を見つめ直す場にして行ければと思います。
(橋本豊)

ようこそ 連研へ!

坊守さん、会長さんから連研に参加してみませんかと言われ、びっくりし色々悩んだ末、恥ずかしながら参加しました。当日、住職様の運転で上毛三山を眺めながら、不安を胸に敬西寺様へ。県内十カ寺の住職様方、素晴らしい人達の出逢いに、すごい所にいる自分。不安を忘れ、うれしく涙がポロリ。

第一回テーマに基づきスタート。話し合い法座、各班に分かれ、まず自己紹介を兼ねて、私と寺との出合いを一言と、一番の私。何を話したか思い出せない程緊張して、今さら反省しています。嫁いで50年。先祖様にお世話になり、見守っていただいている日々がありがとうを伝えたく、これからの2年間の受講、頑張りたいと思っています。(宮崎さと子)

今後の予定

4月11日(土)	覚法寺	葬儀・法事について	吉田慶哉
6月27日(土)	清照寺	お墓について	阿部信幾
8月29日(土)	西福寺	仏壇について	松岡満優
9月26日(土)	千明仁泉亭	一泊研修	嵯峨宣正
27日(日)	勤式作法	お荘厳 Q&A	
12月19日(土)	清光寺	苦・「生老病死」	高橋伸也



話し合い法座 大乘1月号抜粋

連研とはと不安に思いながら、2月8日に敬西寺様で群馬組十カ寺から40名、弘教寺から4名の門徒の方々が参加して研修が始まりました。連続の12回の長丁場について行けるか心配です。2年間を無駄にしないようメインである「話し合い法座」を大事に、連研の意味を深く受けとめて、終了時には「心豊かに生きる道を求め続ける」ことになればと頑張ります。
(飯塚治男)

群馬組連研の第一回が高崎の敬西寺様で行われました。組内十カ寺の住職様がおそろいで感激をいたしました。各グループに分かれてのミーティングでは「お寺との繋がり」を個々に話し、私は、「主人(岐阜県出身)の往生により岐阜でお世話になっていたお寺さんより紹介をしていただき、今は弘教寺様にお世話になっております。」と話しました。
地域の事もお寺の事も何もわからない私ですが連研に参加させていただき、少しでも皆様に近づけるように頑張りたいと思っています。
(小森靖子)

築地本願寺報恩講法要に参拝して



昨年の11月14日に23名で築地本願寺報恩講の速夜法要に参拝しました。
「有り難うのつどい」はお経と雅楽の調和のある厳粛な法要でありました。
帰りには浅草で、ショッピングと美味しい食事ができ、充実した一日でした。(橋本勝)

- 『あすありとおもうころのあださくら 夜半にあらしのふかぬものか』という親鸞聖人の短歌を知ったのは、中学生の頃、貸本屋で読んだ吉川英治の『親鸞記』
「今を大切に生きる」を教えられた。以下の文は報恩講に参加し、聖人への報恩の覚書。
1、 築地本願寺報恩講 七絶
印度 伝 来 大 仏 堂
報 恩 講 法 座 端 莊
声 明 雅 樂 平 和 韻
他 力 真 宗 本 願 王
2、 アミリタや 本願他力言の葉の 大悲の光 忝けなさま
3、 報恩講 五会念仏の 声明雅楽 三管両絃 三鼓の響
4、 築地にて 初めてパイプ オルガン奏 聞きて感謝 青臭きころ
5、 身に入むや 仏恩深し 聞法値遇
6、 金色の築地のパゴダ 秋の暮 (渋沢一真)

京都散策

京都で生活を始めて2年がたとうとしていますが、そういえば近くの寺や神社をちゃんと見て回った事がなかったなあと思いました。今回は近くのお寺や神社に行ってみました。
ネットの情報では新型コロナの影響で観光客が全然いないとありましたが、実際にはそんなことはなくむしろ日本人の観光客がたくさんいてとても賑わっていました。
まず行ったのが仁和寺です。庭園は遠くに見える五重塔などの建物とマッチして美しく、境内は広くて落ち着いた雰囲気があるお寺でした。次は龍安寺に行きました。龍安寺には、有名な石庭があり、多くの修学旅行生や外国人観光客が見入っていました。続いて行ったのは鹿苑寺金閣です。金閣は二度目でしたがやはり金色の舍利殿は美しかったです。最後に行ったのが北野天満宮です。ちょうど梅苑の梅の花が咲いている時期で、多くの観光客が楽しんでいました。また、宝物殿では日本書記の北野本や、名刀「鬼切丸」などの貴重な展示があり見入っていました。



北野天満宮

家の近くを歩いてあらためて京都は歴史ある街なのだなど実感することができました。
合掌 (中山大悟)

真悟の京都日記(9) 日野誕生院

今回は、日野誕生院に行ったお話をします。
日野誕生院は、親鸞聖人の誕生の地を顕彰して、日野に建てられた本願寺派寺院です。幼少期の聖人の銅像と、聖人が得度の際に読まれた「あすありとおもふころのあださくらよわに あらしのふかぬものか」の和歌が刻まれた歌碑があるのとこので、是非一目見ようと自転車を走らせました。お昼前に到着すると、近所に住むという老夫婦が先んじて参拝していました。ここは秋の紅葉が美しく、また法界寺もおすすめたというところで、行くことにしました。



法界寺は誕生院に隣接し、ひっそりとたたずんでいる雰囲気のお寺でした。ご住職によると、日野家の菩提寺である天台寺院で、聖人は幼少期をここで過ごしていたとのこと。境内には、重要文化財の薬師堂、国宝の阿弥陀堂があり、その中の阿弥陀如来像は、国宝ならではの荘厳な姿をしておりました。聖人が見たものと同じものを見ているということに、感動と喜びを感じながら終えた今回の参拝でした。日野誕生院でのご夫婦とのご縁によって結ばれた法界寺とそのご住職とのご縁、さらに阿弥陀如来像を通じて感じられる聖人とのご縁。こうして縁は結ばれていくものなのだなあと感じた一日でした。

合掌 (中山真悟)

いのちのことと考えて 子どものついで



令和元年の夏フェスタに初めて登場した「そうめん流し」。おぼかなげにお箸を使う幼い子たちも、上手に一気にすくい上げる上級生たちも見守る大人も、皆、樋(とい)を流れるそうめんを逃がさず食べたにぎやかな時間でした。春は花まつりで「ちらしずし」「いなりずし」を、冬はお餅をついて「大福もち」を作って食べました。

毎回、楽しく遊んだ後は、皆で合掌して「食前の言葉」を言って食べ、食べ終わった後は、「食後の言葉」を言います。

自分の手をかけて、作って食べるという体験と、難しい言葉ですが、「食事の言葉」を繰り返す言うことでその意味に気づけるようになってくれるばと思っています。

食材を捕獲採取したり育てたり、加工したりしてくれる人々がいることを知り、何より食材自体に元々「いのち」があったことに気づくということ。その「いのち」が、自分の「いのち」に転換され元気に生きていることに気づいていってほしいのです。

そして、広く「いのちの尊さ」を思い、「感謝の心」を育んでいってほしいと思います。(坊守)

「食事の言葉」

食前のことば

食後のことば

◎深く「恩を喜びありがたくいただきます。このごちそうをめぐまれました。

◎深いおめぐみをおいしくいただき、ますます「恩ほうしやにつとめます。

◎おかげで「ごちそうさまでした。

◆この人◆ 泉昌子さん 伊勢崎市

来年に創立50周年を迎える歴史ある仏教婦人会の会長を務める泉昌子さんを紹介します。戦時中に伊勢崎市(旧市)で4人姉弟の次女で生まれます。終戦も近い伊勢崎空襲で戦争の怖さを体験しますが、父親の織物の仲介業(糸を織物業者に届けその製品を販売業者に届ける)のおかげで姉と一緒に地方にいったり、美味しいものを食べた幼少期の楽しかった思い出を懐かしく語られます。

義母の葬儀のあと寺とのご縁をいただき、生前のご主人の勧めもあり西本願寺参拝旅行に参加をします。そして婦人会の活動も知り、寺の行事に積極的な参加をし婦人会にも入会をします。婦人会の皆様が親切でやさしくて、明るく楽しい会に感激しましたと当時を振り返り笑顔で話されます。

もう一つの思い出は寺が行事で忙しい時、幼ない大悟様、真悟様をご主人と共に一日中預かり遊んだ楽しい日々です。現在のお二人は得度をされて僧侶になりました。孟蘭盆会・報恩講でのお勤めのたびに、その姿を感無量の思いで見られます。



婦人会の折りに寺の参拝で、本堂の前に座ると心がおちつき、穏やかになると喜ばれ、これからも皆様ありがとうございます。感謝の気持ちで励みたいと元気に語られます。

お身体を大切にして下さい。(橋本勝)

◆ 行事予定 ◆ 令和2年 4月～ 令和2年 7月

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
4月	11日	子供の集い	5日	組内会
	20日	婦人会例会	11日	組連続研修会
	29日	永代経法要(延期)		
5月		壮年会総会		
	21日	婦人会総会	20日	組仏婦運営委員会
6月			1日～2日	北ブロック役職者会議
	19日	婦人会例会	15日	組婦人会総会
			27日	組連続研修会
7月		壮年会例会		
	22日	納涼カラオケ会 婦人会例会		
			29日	ピハークラ法話会・カトリ

※ 編集後記 ※

令和2年に入り、この冬は暖冬で、寒がりやの私にはおおいに助かっています。新型コロナウイルスが話題になっています。私達は常に、目の前の出来事に振り回されています。そんな時こそ、真実を見極めるためにご法話をじっくり聴かせていただくと思います。 瀬古規子(釈安徳)